

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

## 1人で行く山スキー…岡山県 田中初四郎先生の報告

岡山県の田中初四郎先生からメールで精力的に山に行っておられる報告をいただきました。報告いたします。

### 北信越高校山スキー研修会 (2月5~6日)

3日から5日は岡山県高体連登山部主催の「冬季登山大会」。4日はゲレンデスキーの講習会で人手が足りないので技術講師を頼まれていた。当初は、6日午前中行う雪上歩行の講習会もつきあう予定でしたが、4日夕方、松本を目指した。充実した2日であった。大西英樹さんにブンリンに連れて行っていただき、山スキー用のザックを購入。

### 烏ヶ山 (2月13日)

松田・大西さんが来られたとき (2009年3月20~22日、信高山岳会弥生例会)、登れなかった烏ヶ山。前日から降雪で50cm以上の新雪。登り始めのアプローチは斜度がなく、登りはいいが帰りが大変と思いながら夏道を意識しながらスキーで上がれるところまで登る。ここから先はアイゼンの世界。極上のパウダースノーを満喫。

### 大山山頂から (3月5日)

晴れの日を選んで出かける。前日までに60cm以上の降雪。弥山への夏道沿いに登り、途中からブナの林の中を登る。新雪がふかすぎ、切り返しに苦労し、シール登高を6合目避難小屋手前で断念。ブンリンで買ったザックに初めて板を付ける。具合がいい。今年、鳥取では積雪が今までにないほど多く、6合目避難小屋は雪の下。2年前に松田・大西さんと一緒に滑った沢の1つ南の沢を途中まで滑り、後半は一緒に滑った沢を下る。軽い雪で今までで最もいい山スキーだった。

### 氷ノ山 (3月19~20日)

岡山県高体連登山部主催の「春季登山大会」は鳥取県の氷ノ山で19日から20日、男子3校18人、女子1校3人で開催された。大会の応援ということで氷ノ山へ。20回以上参加しているが、雪の多さに驚く。兵庫インターハイに来られた方はわかると思いますが、氷ノ越にテントを立て、必要最小限のものをザックに入れて山頂を目指す。帰りは「甕岩」の手前にシュプールを刻む。

### 大山・振子沢 (4月10日)

雪が多いので、期待して振子沢へ。晴れの日を選んだ。雪の多い年よりも1mから1.5m多い。暑いぐらいの陽気の中、山スキーを堪能。

世を挙げて「自粛」ムード。行事は「自粛」しないといけないう風潮が怖いですね。「自粛」で経済活動が萎縮すると復興の足を引っ張ることになりかねないと思います。被害にあった人の心情を害さないことは「自粛」しないで経済活動を活性化しましょう。ということで石川の根石さんと4月29日から白山で山スキーをやりたいと思っています。ご一緒しませんか。



## 3月の山行 その1 崑崙遠征隊錬成合宿

3月27日、28日今夏予定している崑崙山脈遠征隊の合宿を行なった。参加したのは、登山隊のメンバー6人（松田、宮本、久根、山内、三戸呂、大西）と高体連専門委員長の塩川淳男先生。当初は、戸隠八方睨に登る予定であったが、前日から降り続く雪で、雪崩の危険性があったため、飯縄リゾートスキー場へ移動。27日はスキー場下部においてロープワークの確認をした。

翌28日はスキー場から霊仙寺山へ登った。霊仙寺山は昨年の県大会で使った山。今回はその時使った登山道ではなく、スキー場から山頂に向けてひたすらまっすぐ登った。6:45スキー場を出発。途中ゲレンデ内で2本休憩を入れ、9:20ゲレンデトップに到着。出発時は頂上も望め、青空が広がっていたが、途中から雪が舞い始め、このあたりまで来ると吹雪となった。ここからは、「わかん」を履いてのラッセル訓練となった。やがて斜面は疎林となり頂上まであとわずかとなったが、なんとなく雪崩れそうないやな感じがしたので、標高1750m付近から引き返すことにした。

当初予定した実戦スタイルの登攀訓練とはならなかったが、地震で少しナーバスになっている隊員相互の意志疎通を図る有意義な合宿となった。

## 3月の山行 その2 大町高校・池田工業ジョイント山行

3月30日、鹿島槍スキー場上部黒沢尾根において大町高校山岳部と池工山岳部合同の雪山山行を行なった。当初池工は雪上1泊の予定であったが、震災のあとで、諸事情がうまく整わなかったため、日帰りとしざるを得ず、参加生徒も大町が4人（引率は小沼先生）、池工が1人とやや寂しかった。スキー場自体も営業を一部自粛しており、上部のリフトは運休していたので、一本分余分に歩く羽目になったが、それでも天候に恵まれたこともあり、参加した生徒たちは大喜び。

今回は、スキー場から佐野坂峰（1665.2m）までのピストンとしたが、このコースは山岳総合センターの一般向け冬山講習会でも使われるコースでもある。雪崩の危険も少なく、この時期に高校生を連れて行くとともに楽しい活動ができる。大町は「スノーシュー」、池工は「わかん」。中信地区の高校からは、至近の場所にもあるので、お薦めである。他校の皆さんにもお薦めします。

## 編集子のひとごと

3月11日に東北地方と関東地方に激しい被害をもたらした大地震と大津波、さらには翌日未明栄村を襲った大地震、そしてその後の原発事故。「福島第一原発」の事故は、とどまるところを知らず、未だ事態収拾の目処はたたないばかりか、ますます危険度が増してきている。これまで「安全だ。」と言い続けてきた国や東電を初めとする電力会社のことばの嘘が、まさに白日の下に曝されたわけだが、世の中にはついていい嘘とついてはいけない嘘がある。今回の「嘘」は、その意味では極めて悪質な嘘だった。地震から1ヶ月、日本ばかりでなく、世界全体が大きな衝撃を受けた災禍の中、2011年度が幕を開けた。そんな中、僕らにできることはなんだろうかと考えながら少しずつ粛々と日常生活を続けている。先日、山岳部の生徒と部活のとき話をしていたら、その生徒がぼつりと「僕の家には、3月末に茨城県から親族が頼って避難してきた。」と言った。聞けば8人を受け入れるのだという。決して裕福とはいえない彼の家。楽ではないことだろう。しかし、決して他人事ではないと、身につまされた。改めて災害や事故で被災に遭われお亡くなりになった方や、今なお先の見えない不安の中で、必死に復興に向けてがんばっておられる方々に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げたい。（大西 記）

さて、そんな先の見えない真っ暗な長いトンネルに入り込んでしまったような年度だが、先は見えなくてもトンネルの先には必ず出口がある。降りやまなかった雨はないように・・・。